

石川尚子氏小中高連携講座について

11月1日、枝幸町の「北海道教育の日」協賛事業として、本校の父母と教師の会主催により小中高連携講座を実施しました。講師は（株）ゆめかな代表取締役石川尚子氏でした。私は石川さんの資料を以前読んだことがあり是非直接お話を聴きたいと思っていました。国際コーチ連盟プロフェッショナル認定コーチとして、年間180回もの企業研修、講演活動を行っている多忙な方ですが、幸運にも日程がうまく合い、枝幸町にお呼びすることができました。

演題は「子どものやる気を引き出す言葉・引き出さない言葉～子育てに活かすコーチングの考え方とスキル～」。日曜日にもかかわらず会場に集まっていたいただいた方々が隣の人とペアになり、石川さんの指示に応じて問答する実践的な講座でした。始める前は参加者が皆口を閉じ、まるでテスト前のような緊張感がみなぎっていましたが、たちまち打ち解けた活気溢れる空間に変わり、90分があつという間に過ぎました。素晴らしい映画を観ているときのように、終わってほしくない、まだまだお話を伺いたいと思いました。これまでいくつもの研修を受けてきましたが、参加者があれ程熱心に傾きながら耳を傾け、終了後のアンケートを一生懸命書いている姿は珍しいと思います。

石川さんはペアワークを取り入れながら、ティーチングとコーチングの違いを身をもって教えてくれました。ティーチングは自分が持っている答えを相手に与えることであり、指示命令・指導に他なりません。コーチングは相手が持っている答えを引き出すことであり、相手を信じて質問・傾聴を続けることです。ティーチングとコーチングにより問題解決の仕方が異なってきますが、根底的にはコミュニケーションの違いであり、相手に与える影響も変わってきます。

ティーチングは「相手は何もできない」という前提に立って一方通行的に教えることであり、結果として、相手は答えが与えられるのを受動的に待つようになってしまいます。それに対して、コーチングにおいては、自分と相手は平等な立場にあり、相手に十分な潜在能力があることを想定し、双方向のコミュニケーションを行います。相手に自分で考えさせ、自発性ややる気を高めることにつながります。もちろん、一方的に答えを与えることに比べれば時間がかかります。なかなか期待するような変化が生じないこともあるでしょう。しかし、相手が持っている器の中に、根気よく、承認や肯定、信頼に基づくことばを注ぎ、プラスの暗示をかけ続けることにより、器から水があふれ出すように、自信を持ち前進を始める「時」が訪れるのだと石川さんは言います。

鍵を握るのは質問のことば、質問の仕方です。たとえば相手に何かできないことがあるとき、「なぜできないの？」は後ろ向きの質問で、聞かれた相手は「時間がない」などの言い訳を考えたり「自分の意志が弱いから」と自己否定に向かったりします。他方「どうすればできると思う？」は前向きな質問であり、相手の意識は未来に、解決策に向かいます。詰問し、相手を支配・従属の関係に置くのではなく、「やったらやれるかも」「自分にもできるかも」「自分は価値ある存在だ」といった自己肯定感、自己信頼感を醸成することになります。

石川さんはいくつもの経験談を交えながら、私たち参加者にコーチングの本質、そして子どもたちに向かい合う姿勢をわかりやすく教えてくれました。

現在、知識伝達・注入型の授業ではなく、生徒の主体的・協働的な学びを促すアクティブ・ラーニングが重視されています。また、社会の変化が目まぐるしく、課題を発見し自分で考えて解決に取り組む力を育成することが求められています。したがって、コーチングの考え方はこれからますます大切だと思います。

今回の講座の開催にあたりご支援をいただいた枝幸町教育委員会、小中学校をはじめとする関係各位、そして参加された皆さんに、この場を借りて心より感謝申し上げます。